

北海道駒ヶ岳

○地磁気全磁力

北海道大学では、プロトン磁力計により山頂火口原を含む5箇所で全磁力連続観測を行っている（図1）。2006年以降の変化（K04を基準とした単純差）を図2に示す。火山活動に伴う顕著な変化は認められない。

山頂火口原内のK05では長期トレンドとして僅かに減少の傾向があるものの、火山性の変動とは断定できない。なお、2008年7月23日朝の雷雨に伴い、K01（馬の背）で約10nT、K03（7合目）で約30nT、K05（火口原）で約2nTのステップ状の変化が発生した（図2の①）。激しい雨による土砂の移動や落雷による岩石の帯磁などの要因があり得るが、原因は特定できていない。このステップ状変化の後、K01では減少傾向が認められるが、火山性のものかどうか現時点では不明である。

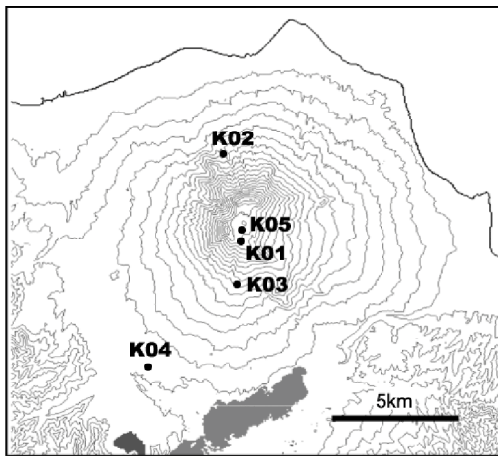


図1 駒ヶ岳全磁力連続観測点の配置

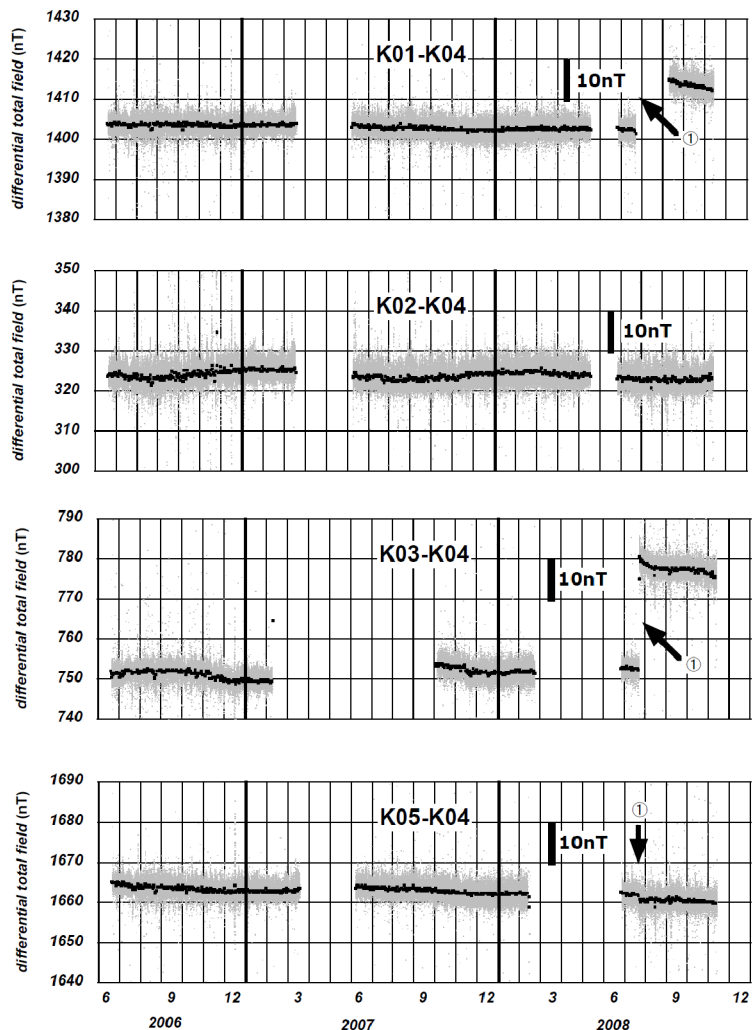


図2 2006年6月～2008年12月の全磁力変化。K04を基準とした5分値単純差および日平均値でプロット。

(橋本・鈴木・茂木)